

著者紹介

(掲載順)

土方 透 ひじかた・とおる

聖学院大学名誉教授

1956年生まれ。中央大学および同大学院にて、法律学および社会学を学ぶ。社会学博士。聖学院大学創立時からの専任教員。政治経済学部政治経済学科専任講師、助教授を経て2022年退職。退職時の役職および職位は、総合図書館長および政治経済学部教授。ハノーファー哲学研究所、ヴェルツブルク大学、デュッセルドルフ大学客員教授、Soziale Systeme: Zeitschrift für soziologische Theorie 学術顧問等を歴任。専門は理論社会学。

【主要著書・編著書】Das positive Recht als soziales Phänomen (Duncker & Humblot), Riskante Strategien: Beiträge zur Soziologie des Risikos (Westdeutscher Verlag)、『世界社会の宗教的コミュニケーション』、『法という現象』、『リスク／制御のパラドクス』、『宗教システム／政治システム』、『現代社会におけるポスト合理性の問題』、『ルーマン／来るべき知』ほか、N. ルーマン、G. トイプナー等の理論社会学、宗教社会学、法社会学の訳書を公刊。

五十嵐 成見 いからし・なるみ

青山学院大学文学部卒。東京神学大学神学部、同大学大学院神学部修士課程修了（組織神学）。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士課程修了（学術博士）。聖学院大学心理福祉学部チャプレン・准教授の後、現在東京女子大学現代教養学部人文学科准教授（キリスト教学）。